

徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展
- 各機関が持つ様々な資源を活かした社会貢献と人材育成

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力により、我が国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的とした事業である。

2. 連携協議会

平成26年5月29日(木)、第1回目となる連携協議会が明治大学アカデミーコモンにおいて開催された。協議会は明治大学の藤江昌嗣社会連携機構長が議長となり、各機関から計14名の委員が出席し、平成25年度の連携事業について報告を行うとともに、平成26年度に実施する連携講座等の事業が提案され、承認された。

なお、この協議会は、各機関持ち回りで開催されることになっており、平成27年度は徳島大学が担当し、開催する予定である。

3. 連携事業

第2回目となる連携事業は徳島県が主担当となり、『四国八十八箇所霊場と遍路道～「発心の道場・阿波霊場」をたどる～』と題して、オープン講座(公開シンポジウム)とフィールドワークを含んだ特別企画講座が行われた。

この連携事業は、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として行われ、平成26年10月4日(土)に行われたオープン講座(公開シンポジウム)では、定員を大きく上回る約430名の受講者を集め、東京大学教授で日本イコモス国内委員会委員長の西村幸夫氏から「世界文化遺産とは」と題して、四国大学教授で第四番札所大日寺住職の眞鍋俊照氏から「四国遍路の魅力」と題して基調講演が行われた後、本学総合科学部の高橋晋一教授をコーディネーターとして、明治大学法学部の林雅彦教授、徳島文理大学のモートン常慈講師、徳島県教育文化政策課の早淵隆人主査に基調講演講師の2人を加え、「四国遍路の魅力を探る」と題してパネルディスカッションが行われた。

特別企画講座は計3回の連続講座と、実際に徳島の札所を巡るフィールドワークが行われ、10月18日(土)には「江戸時代の四国遍路と札所寺院」と題して鳴門教育大学の町田哲准教授から、10月25日(土)には「日本文学に描かれた四国遍路」と題して明治大学法学部の林雅彦教授から、11月8日(土)には「札所寺院の建築物と石造物」と題して徳島大学工学部の中野真弘講師(建築物)と総合科学部の石田啓祐教授(石造物)からそれぞれ講義が行われ

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域連携担当)、副学長)
〒770-8501 徳島市新蔵町2丁目2-24
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9965
e-mail: khkoukenc@tokushima-u.ac.jp

た。また、11月17日(月)から19日(水)の3日間は、約10名の参加者を集め、明治大学法学部の林雅彦教授や徳島県教育文化政策課の早淵隆人主査も同行し、四国八十八箇所霊場会公認先達の説明を受けながら、第一番札所霊山寺から第五番札所地蔵寺、第二十番札所鶴林寺から第二十一番札所太龍寺などの霊場を、実際の遍路作法や霊場の歴史、霊場の間にある丁石などの話を聞きながら深秋の霊場を巡った。

4. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当となって開催しているが、平成27年度は本学が主担当となり、糖尿病などの生活習慣病の予防に関するシンポジウムの開催を予定している。

また、このような事業のほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業の開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な展開が期待されている。



地域連携公開事業

平和と戦争—市民のための〈理論武装〉講習会

事業のポイント

- 民主主義が機能するためには市民一人ひとりが十分な知識・情報と合理的な思考力を持たねばならない。
- 集団的自衛自体は一定の抑止効果があり得るが、日本の現状において行使するのは不合理であり、そもそも閣議決定で決めたのは立憲主義に反して言語道断、という結論を共有した。

事業の概要

1. 事業の目的

最近、改憲、集団的自衛権、領土問題、北朝鮮問題、特定秘密保護法など平和と戦争に関わる課題が注目されているが、感情的で一方的な議論も見られる。本事業は徳島弁護士会と協働して、平和と戦争に関して適切な「理論武装」を促進しようと企画された。

2. 事業の取組状況

今回は特に集団的自衛権の問題に注目し、公開シンポジウム「集団的自衛は良いのか、悪いのか—日本を守る賢明な方策とは」と題して実施した。安倍政権は中国や朝鮮半島の脅威を前提に集団的自衛権の行使に踏み出そうとしているが、それは妥当なのか。まず饗場がアナーキーな国際社

事業代表者・連絡先

饗場 和彦(大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部・教授)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel / fax: 088-656-7186
e-mail: aibak@tokushima-u.ac.jp

会では自衛や国連の集団的安全保障のために一般論としては一定の武力が必要と説明。続いて古川浩司・中京大教授が「国際関係を平和にする諸方策」と題して、武力によらない方法を多種紹介し、今日本がとるべき方策はむしろ友好的な近隣外交だと指摘した。後半はこの問題に詳しい大西聡弁護士とパネル討論を行った。

3. 事業実施による成果と今後の展開

この問題自体、大きな政治課題であり、また衆議院選挙の直前という状況でもあったので、極めて時宜を得た意義があった。聴衆は学内外から約90人を数え、新聞などで報道された。安倍政権に対して専門家からは批判がある中、市民の間でも関心が継続されるべく、今後も同様の取組が予定されている。

地域連携公開事業

サイエンスカフェPM2.5:東アジア・中国からの西日本への越境 大気汚染の実態

事業のポイント

- 冬季に西日本へ飛来するPM2.5の越境大気汚染の大学が実測した実情を公表した。
- PM2.5に含まれる有害重金属の飛来状況と飛来経路を解明した。

事業の概要

1. 事業の目的

徳島大学総合科学部において冬期と夏期における降水中の大気汚染物質の観測と研究を、国内都市部の大気汚染の影響を受けない四国山岳において継続的に実施してきた。その成果について、一般にわかりやすく公表することで、市民の型へ研究成果を還元することを目的としている。

2. 事業の取組状況

四国中央部の標高1400m山頂における樹氷、降雪などに含まれるPM2.5粒子の組成分析から北京、天津や遼寧省南部方面の中国中東部から飛来した場合と瀋陽や長春方面の中国東北部から飛来した場合は粒子の化学組成が大きく異なることを初めて解明した。日本国内に起源をもつ都市粒子は鉄粒子であるのに対し、中国方面からは主に火力発電所から発生する組成の異なる石炭フライアッシュであること

事業代表者・連絡先

今井 昭二(大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部・教授)
〒770-8501 徳島市南常三島1-1
tel / fax: 088-656-7273
e-mail: imai@ias.tokushima-u.ac.jp

が判明した。燃料の源炭の違いによると思われる。

化学分析により鉛以外に有害な有機水銀、ヒ素、カドミウム、亜鉛など多くの有害重金属元素も含まれる場合があることが分かってきた。

3. 事業実施による成果と今後の展開

総合科学部研究紀要や日本分析化学会の専門学術誌野中でも、一般向けの情報源として有効な日本語論文として公開したことで、Web情報として流通する。社会的インパクトが期待される。サイエンスカフェを実施する。

地域連携公開事業

ふくしま、とくしま、ともに輝こうプロジェクト ～ふくしま、とくしま、ともに歩もう～

事業のポイント

- ふくしまの現状を知るとともに、復興に向けた新たな段階の支援をカンファレンス形式で考える。
- 将来起こる大災害(南海トラフ大地震)への対応、防災・減災に活かす。

事業の概要

1. 事業の目的

東日本大震災から3年半が過ぎた福島県では、今でも復興が進んでいない地域があり、引き続きの支援が必要とされている。そこで現在の福島の現状を知ってもらうために、シンポジウムを開催する。

2. 事業の取組状況

①映画上映とトークショー

映画「いわきノート」を上演した。その後、映画制作者・出演者によるトークショーを行い、それぞれの立場や震災当時の状況、映画制作に参加するまでの経緯などを話して頂いた。



写真1.
ワークショップの様子

事業代表者・連絡先

中山 信太郎 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授)
〒770-8502 徳島市南常三島1-1
tel / fax: 088-656-7236
e-mail: nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp

②ワールドカフェ形式の対話ワークショップ

参加者と映画制作者・出演者、シンポジウム主催者を交え、ワールドカフェ形式のワークショップを行った。

③基調講演とパネルディスカッション

「いわき未来会議」を主催している霜村真康氏、NPO法人「ふよう土 2100」理事長の里見喜生氏に講演をして頂き、その後パネルディスカッション「ふくしまの今 ～震災後3年半の現状から考える～」を行った。

3. 事業実施による成果と今後の展開

「現在の福島の現状を知る」というシンポジウムの趣旨は、概ね達成できた。特にワールドカフェやパネルディスカッションでは、講演者や参加者が同じ目線に立てることから、「意見を相互に交わす」という形が容易に成り立った。「小さなことでも行動すれば支援になる」ということを広く知ってもらうことができた。

地域連携公開事業

徳島ピンクリボン集会:「徳島の女性を乳がんから救うために」事業

事業のポイント

- 乳がん検診普及のための県民参加型の講演会「徳島ピンクリボン集会:がんを克服するために」を開催。
- 乳がん検診の受診率向上により乳がん死亡率の減少を目指した啓発運動を行った。

事業の概要

1. 事業の目的

欧米諸国では国をあげての乳がん対策が行われており、近年の乳がん検診は70～80%と高率で乳がん死亡率も低下している。しかし、日本では働き盛りの女性が罹るがんでは乳がんが罹患率、死亡率ともトップである。わが国の乳がん検診受診率は視触診単独検診で12～13%、マンモグラフィ併用検診はわずかに5%以下と大変に低く、先進国の中で唯一日本のみが乳がん罹患・死亡率ともに増加している。乳がん検診率向上のための啓発運動として医師・コメディカル向け講演会「乳がん細胞診のコツ」、乳がん検診普及のための県民参加型の講演会「徳島ピンクリボン集会:がんを克服するために」を開催した。

2. 事業の取組状況

われわれは2005年から乳がん早期発見のための啓発運動を展開し、現在NPO法人徳島乳がんネットワークを設立し、乳がん診療や検診を行う医師や薬剤師、看護師、放射

事業代表者・連絡先

丹黒 章(大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授)
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15
tel: 088-633-7141 fax: 088-633-7144
e-mail: surgery2@tokushima-u.ac.jp

線技師の診療・検診技能向上のための講習や勉強会を継続して行うとともに、乳がんに対する県民の知識や意識向上のための啓発集会や市民公開講座を開催してきた。

3. 事業実施による成果と今後の展開

本年もがんについての最新情報を勉強し、がんの予防、とくに早期発見のための検診受診率向上を図るために、日本におけるがん診療のオピニオンリーダーならびに日本で初めて乳がん患者会を設立させ、全国的なピンクリボン運動を展開しているワット隆子女史をお招きして、徳島県内の医師、コメディカル、県民を対象に講演会と市民集会を開催した。



地域連携公開事業

大学と地域の国際化シンポジウム 「徳島から世界へ、世界から徳島へグローバル化をめざして」

事業のポイント

- 本学学生・教職員・地域(含.小中高校生)のグローバル人材育成を見据えた異文化理解及び異文化体験の一助。今回は「留学」を主テーマとする。
- グローバル化の底上げを目的とし、誰もが気負いなく参加し、体験できる内容を県教育委員会(小・中・高校)及び地域との連携で実施。

事業の概要

1. 事業の目的

目下グローバル人材の過程にある留学生と日本人が日本語で意見を交わし、情報交換をすることで誰もが垣根が低く、外に目を向けるきっかけが得られる。また留学生にとっては、多くの日本人と交わり発表することで、自分に対する自信の育成になると考えた。

2. 事業の取組状況

11月29日(土)10時から14時まで国際センターでバラエティに富んだ三部構成でシンポジウムを実施し、当日126名の参加を得た。

内容は、第1部1)講演「私の人生と留学の係わり」留学経験者OBと留学生OB各1名、2)パネルディスカッション「自分にとっての留学とは」留学経験のある日本人学生及び留学生と1)の講演者の計8名、第2部「世界の料理ー説明及び試食体験」留学生11名、第3部①「ポスター発

地域連携公開事業

まほろば国際プロジェクト

事業のポイント

- 文部科学省委託留学生交流拠点整備事業「異文化キャラバン隊による国際化と新たな地域の創成一留学生との交流による多文化共生まちづくり」の活動の一つである。大学から地域へ学習の場を広げ、美馬市の文化財「脇町劇場オデオン座」での演劇、学校訪問、ホームステイ等の体験から異文化理解を考える。この体験からさらに地域と共に多文化共生の可能性を探る。

事業の概要

1. 事業の目的

美馬市との協力により、留学生らが中心となった「とくしま異文化キャラバン隊」が脇町劇場オデオン座にて、地域の人たちと異文化理解活動をする。

2. 事業の取組状況

7月に二つの小学校訪問(国紹介と交流会)、11月に三島小学校「ふれあい収穫祭」とホームビジットに参加、1月23-24日に小学校訪問、ホームステイ、25日に美馬市脇町劇場オデオン座にて演劇、交流会と1年をとおして交流活動を重ねている。上演した劇は人間と友達になりたい鬼が異形ゆえに忌み嫌われ、それでも友達を探して海を歩き続ける物語である。演じる留学生らと観客に対して、自分と違うものを受け入れられない心から、見方を変えて新たな関係性を一緒につくることを促している。最後に全員で交流会を行い、美馬市を舞台に多文化共生のまちづくりの第一歩が踏み出

事業代表者・連絡先

大石 寧子(国際センター・教授)
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
tel / fax: 088-656-9875
e-mail: oishi@isc.tokushima-u.ac.jp

表「私の国について」留学生10名の発表と②留学生2名による児童を対象とした「自国の子供の手遊び」である。

今回は本学はもとより地域住民の中でも徳島県教育委員会の協力を得て県内の小中高校生及びその教職員にも積極的に周知し、多くの参加を得た。

3. 事業実施による成果と今後の展開

第1部(主テーマ「留学」)では学生達から「留学に対する準備や取組方がわかった」や第3部では「発表者の近くで意見が取り交わせて、身近に感じた」など好評であった。また各所で参加者同士が自由に意見を取り交わしている光景が見られ、このような場の必要性を感じた。引き続き実施していきたい。



高大連携理科教育向上ワークショップ

事業のポイント

■ 県立城南高等学校と徳島県教育委員会との協力の下、県内高等学校のSSH・理数科・科学クラブの生徒に対し、ワークショップを通じて課題研究のテーマの決め方の一手法を紹介し、それを参考にして各高等学校にて課題研究のテーマと研究内容の原案を考える。その研究テーマと研究の仕方に対し助言指導を行う。

事業の概要

1. 事業の目的

県立城南高等学校と徳島県教育委員会との協力の下、県内の高等学校のSSH・理数科・科学クラブの生徒に対し、課題研究テーマの決め方及び研究の仕方に対し、ワークショップを行うと共に指導を行う。

2. 事業の取組状況

平成25年11月22日(土)に、県内高校生(95名・引率教員等10名)に対し、ブレインストーミング&KJ法を用い、研究課題の机上研究を行った。生徒達は活発に議論を行い、好評の内に第1回研修会が終了した。第2回研究会は、平成27年2月21日(土)に行う予定である。前回行ったブレインストーミング&KJ法を用い、各高等学校にて、考えてきた研究課題について発表を行う。今回は、前回の反省に基

事業代表者・連絡先

三好 徳和 (全学共通教育センター・副センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島1-1
tel / fax: 088-656-7250
e-mail: miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp

づき、発表を選別すると共に、予めレジュメを提出することにより、更に深く実際に即した質問をすることとした。さらに、実際どのようにしたら、課題研究を行えるか、実験や研究に関する助言指導を行う時間を取る予定である

3. 事業実施による成果と今後の展開

生徒にとっては、どの様にテーマを決めるか、また実験を行うかが悩む所である。実験した後ではなく、始まる前に、大学教員の助言が得られる点で好評であった。さらに、県内高等学校教諭とも連携を取れるようになっており、高等学校の教員からは、全国的に珍しいこの様な取組の継続が望まれた。加えて、本事業の成果ではないが、受講生が全国コンクールにて表彰されている。しかしその一助となっておれば幸甚である。

徳島県災害時遺体対応・遺族支援研究会研修会

事業のポイント

■ 死体検案訓練や研修会を通じて、南海トラフ日向灘4連動地震において活動する医師、歯科医師、看護師、保健師、臨床検査技師、臨床心理士などの医療関係者、行政関係者、警察、消防、海上保安庁、自衛隊など災害時に現場で活動する人達の間で事前の情報交換が出来る場を提供する。

事業の概要

1. 事業の目的

南海トラフ連動地震時に地元の限られた人的・物的医療資源で死体検案や遺族対応を行う為、2011年9月徳島県遺体対応・遺族支援研究会を立ち上げた。

2. 事業の取組状況

これまで毎年、死体検案訓練と研修会を行っている。出席者は、医療関係者、行政関係者、警察、消防、海上保安庁、自衛隊等、現場で活動する人達が中心である。

3. 事業実施による成果と今後の展開

今回、第4回研修会に助成を戴いた。第4回研修会では、岩手医科大学高度救命救急センター秋富慎司先生と徳島大学環境防災研究センター湯浅恭史先生に講演を賜った。演題は、それぞれ「危機管理と実災害の実際―想定外と多機関・多職種の連携について―」、「災害時アクションカードの活用と事業継続」であった。災害対応という目的を同じくし

事業代表者・連絡先

西村 明儒 (環境防災研究センター、ヘルスバイオサイエンス研究部・教授)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学 工学部
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学 医学部
tel / fax: 088-656-8965
e-mail: ncc1701abcde@tokushima-u.ac.jp

ても初対面の人が共同で事に当たるのは、同業者でも容易ではなく、異業種間では、尚更である。研修会の継続的実施で、現場で活躍する人達の間で情報共有と顔の見える関係を構築する事が出来、速やかな意思疎通ならびに活動を促すことが可能となると考える。



演者の方々 左:湯浅恭史先生、右:秋富慎司先生



秋富先生の講演の様子



湯浅先生の講演の様子



演者を交えた質疑応答

地域交流の拠点「ガレリア新蔵」

事業のポイント

■ 展示室の常設パネルを用いて、徳島大学を広く紹介する。
■ 企画展示などにより、徳島大学が所有するシーズ情報を発信する。
■ ギャラリーフロアを学内外の団体やサークル等に貸し出し、利用に供する。

事業の概要

1. ガレリア新蔵の概要と目的

ガレリア新蔵「展示室」では、本学の沿革、組織、理念・目標、学部紹介などを和英2ヶ国語で標記した「常設展示」と、教育・研究等、本学の様々な活動を取り上げた「企画展示」を行っています。ギャラリーフロアは、学内外の団体やサークル等に貸し出し、展示や催しなどの利用に供することで、地域交流の場として利用が広がっています。

2. ギャラリーフロア開催状況

利用状況は下記のとおりです。

- ①「桜のオブジェ」(4月7日～4月13日)
- ②「竹のオブジェ」(4月14日～5月12日)
- ③「留学生の書」(竹のオブジェ)(5月13日～5月30日)
- ④「留学生と教職員によるお花～夏の山～」(6月6日～6月13日)
- ⑤大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」
春期受講生作品展(8月7日～8月10日)
- ⑥平成26年度徳島大学職員文化祭
(10月17日～11月7日)
- ⑦奥木頭写真展「奥木頭・風土に育まれて今」
(11月10日～11月24日)
- ⑧ポスター展示(11月29日)
- ⑨「四国遍路とコンポステラ 世界遺産への道」写真展
(12月4日～12月19日)
- ⑩大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」
秋期受講生作品展(12月24日～12月26日)

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長)
連絡先: 〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9965
e-mail: galleria@tokushima-u.ac.jp

⑪平成26年度徳島大学しんくら展(2月6日～2月20日)

⑫平成26年度徳島大学書道部・OB会書道展
(3月12日～3月15日)

⑬大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」
冬期受講生作品展(3月23日～3月29日)

3. 「ガレリア新蔵」ギャラリーフロアの利用法等

「ガレリア新蔵」ギャラリーフロアは、徳島大学事務局と同じ徳島市新蔵町の徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)1階にあります。

利用希望の方は、下記の「ガレリア新蔵 Web サイト(URL)」で、「ご利用案内」から「ギャラリーの貸し出し」のページをご覧ください。使用申込にあたっては、下記サイトに掲載している申請書にご記入の上、申請書郵送先(〒770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地 徳島大学ガレリア新蔵)まで郵送して下さい。申請書は、ガレリア新蔵にも置いてあります。

なお、現在、展示室については土曜日・日曜日は閉館とし、月曜日～金曜日の平日に開館しています。



ガレリア新蔵Webサイト:

<http://www.tokushima-u.ac.jp/gsl/>

